

## 何故日本語は曖昧だと思われるのか（４）

——可能表現に関する日中対照の視点から——

Why Is It Thought Japanese Is Vague ? (4)  
—A Comparative Study Concerning Potential  
Expressions in Japanese and Chinese—

周 国龍\*

Guo long ZHOU

### 要 旨

可能表現は日中両言語にある。日本語の可能表現の形式は割合単純であるため、表現を理解するには文脈が欠かせない。一方、中国語の可能表現は表現の意味により色々な表現形式が用いられる。その分、文脈への依存度も低くなる。そのため、中国語話者は文脈に注意を払うような習慣は日本語話者ほど養われていないと思われる。

このような表現方法の違いから、中国語を母語とする日本語学習者は日本語の可能表現の形式の習得はそれほど難しくはないが、文脈から読み取る力が弱いため、実際に運用される時に日本語の可能表現の理解に戸惑うことが多々あると思われる。これが日本語は曖昧だと思われる一因になると考えられる。

キーワード：可能表現 表現形式 文脈 表現の意味 日中の対照

### はじめに

日本語と中国語はともに可能表現を有し、それぞれ関連する表現形式がある。可能表現はその表現の意味により、能力可能、条件可能、属性可能<sup>(註1)</sup>等と分類されている。この意味上の分類において、日本語も中国語も共通しているが、表現の意味によっては表現形式の使われ方は当然ながらそれぞれ大きく異なる。日本語の可能表現形式は同じ表現形式で異なる可能表現の意味を表すことができる。表現形式が単純である分、場面、話の流れ、文脈（以下文脈とする）等への依存度が高くなるわけである。従って、可能表現の意味を理解するにはその文脈を読み取るのが重要不可欠になるわけである。これに対し、中国語の可能表現は表現の意味によって表現形式の使い分けをしている場合が多く、異な

---

\*本学教授、対照言語学 (Contrastive Linguistics)

った表現形式からその意味の違いを正確に読み取れることが多い。そのため、文脈への依存度は日本語よりは低いわけである。

中国語を母語とする日本語学習者（以下学習者とする）は中国語の可能表現の形式から概ねその意味を読み取れるのに対し、日本語の可能表現は表現形式だけでは正確に理解するにはまだ不十分で、その上文脈をしっかりと読みとらなければならない。中国語と日本語の可能表現におけるこのような違いが学習者の日本語の可能表現の習得と理解の妨げになると考えられる。

本稿は可能表現における日本語と中国語との表現方法の異同点を分析し、このような異なった表現方法が学習者に理解を難しくしていることを指摘する。またこれは日本語が曖昧だと思われる原因の一つになっているのではないかと考える。

## 一. いわゆる可能表現について

日本語にも中国語にも可能表現が存在する。日本語の可能表現は主として次の3種類の表現形式に分けられる<sup>(註2)</sup>。

- イ) 一段活用動詞の語尾変化に助動詞「られる」をつける形式
- ロ) 五段活用動詞から派生したいわゆる可能動詞の形式
- ハ) 「する」及び「体言+する」の「する」の位置に代入される「～できる」と動詞の連体形に「～ことができる」形式<sup>(註3)</sup>

中国語の可能表現は、主に助動詞「会」、「能」、「可以」等があり、それらを動詞の前につけて可能表現の表現形式が形成される。

可能表現はその意味により能力可能、条件可能、属性可能<sup>(註4)</sup>に分類される。可能表現についての具体的な考察をする前に、先ず本稿における能力可能、条件可能、属性可能といった可能表現についての定義をしておく。

1) 能力可能とは動作主が行為を実現させるのに必要な能力の有無についての表現である。

1. 私は中国語を話すことができます。／我会说中文。
2. 私は泳げます。／我会游泳。

1、2の動作主は「中国語を話す」、あるいは「泳ぐ」能力が備わっている時に使われる。このような動作主の能力の有無を焦点にした表現は能力可能の表現である。

2) 条件可能とは動作主自身には行為を実行する能力が備わっていることを前提に、何らかの条件下において動作主がその行為実行の可否について表す表現である。

3. 私は100メートル泳げます。／我能游100米。

3は泳ぐ能力があることを前提に、100メートルという条件下においてもなおその行為の実現が可能であることを表す表現である。

4. 日本に帰ってきて、やっとおいしい刺身が食べられた。(文法Ⅱ : p. 68) ／回到日本

终于能吃到可口的生鱼片了。

この例では海外という条件下では食べられないが、日本という場所的な条件下であれば行為が実現できるという表現である。

3) 動作主の行為実行の意志、能力の有無は焦点になっておらず、関係する事柄に行為実行に関する素質が備わっているか否かが属性可能である。

5. この酒は飲めます。／这个酒能喝。

5は酒は人体に害をもたらすような性質を有せず、「飲む」ことのできる素質があることを表す。

6. 窓が開かない。／窗户不能打开。

窓は、たとえば鍵がかかっている、或いは明らかに故障しているような場合、窓に「開く」素質は備わっていないことになる。

7. 燃えるごみ／能燃烧的垃圾 (可燃物)

8. 燃やせるごみ／能燃烧的垃圾 (可燃物)

7、8はゴミ箱の表示である<sup>(註5)</sup>。燃える素質が備わっているごみという意味を表している。8の「燃やせる」は言ってみれば燃やそうとするなら燃える素質が備わっているごみであるという意味を焦点に表しているのであって、このような表示からは設置主が燃やそうと思えば燃やせるといった動作主の能力、あるいは燃やせるといった条件が整っている等を焦点に表そうとする表現だとは考えられない。

9. ふぐは食べられない。／河豚鱼不能吃。

9からもわかるように、いわゆる他動詞であるからといって、動作主の意志、能力が関わるというわけではなく、ふぐに毒があつて食べられないという素質が備わっていることを表しているのみである。

10. あの人は信頼できる人だ。<sup>(註6)</sup>／那个人可以信赖。

あの人は信頼される素質が備わっていることを表しているのであって、動作主の信頼すう意思の有無とは関係がない。

属性可能は事柄に行為実行に関する素質が備わっているか否かについての可能表現であり、この時点で動作主の行為を実行するその意志も能力も言及されていない。事実、このような属性可能の表現は動詞の辞書形かあるいはその否定形で表わすのみで、時制による変化は起きない。属性可能は具体的な行為が起こることはなく、行為実行の可否に関するその素質のみを表す表現である。

11. ゴミが燃やせなかった。／垃圾没能烧掉。

12. 私はごみを燃やせなかった。／我没能烧掉垃圾。

過去形になると、動作主を補足して表すことができる。そうなると、事柄の属性に焦点を当てて表しているというわけではなく、主として動作主に関する能力可能かあるいは条

件可能になる<sup>(注7)</sup>。

13. 河豚に毒があると言われて、怖くて食べられなかった。(作例) / 有人告诉我, 河豚有毒,  
所以我没敢吃。

13は「私」という動作主が食べる行為を「毒がある」という条件下実行できなかったことを焦点に表すことになり、河豚の属性についての表現でなくなった。

以上、本稿なりに能力可能、条件可能、属性可能をその意味により定義してみた。日本語にも中国語にも能力可能、条件可能、属性可能といった意味を表す可能表現は存在しているが、当然のことながら、同じ可能表現を表すとしても表現形式、すなわち表現方法は異なる。この違いが学習者の理解を難しくしていると考えられる。以下、日本語と中国語の可能表現についてそれぞれ表現の意味による表現形式の使われ方と可能表現の意味を考察し、その異同点を明らかにしていく。

## 二. 日本語の可能表現の形式と意味の表し方

日本語の可能表現は基本的に動詞の語尾変化とその接続の仕方により形成され、表現形式として、「～られる」、「～できる」「～ことができる」、そしていわゆる可能動詞といった表現形式に分けられる。これらの表現形式は意図した表現の意味による使い分けは殆ど見られないようである。つまり、可能表現の意味の違いを表現形式自体から識別することが難しい。

14. 私は歩けます。

常識的に大人なら誰でも歩くことができるので、わざわざ「私は歩けます」と言った場合に、「歩ける」は能力可能の意味ではほとんど使えないため、何かの事情により条件可能として使われると理解される。このような常識を前提に会話がなされた場合、誤解は起こらないであろう。しかし、次のような常識だけでは判断しがたい場合は違ってくる。

15. 私は車を運転できません。

車の教習を受けておらず、運転する能力は身につけていないから「運転できない」ならば、能力可能の表現になる。しかし、

16. (酒を飲んだから、) 私は車を運転できません。

16のように前提条件を前置きにして話しているなら、能力の有無ではなく交通規則の規制により運転できないと認識されるから、能力可能の表現ではなく、条件可能の表現に理解されなければならない。このように、可能を表す表現形式は変わることなく、能力可能の表現としても条件可能の表現としても使えるわけである。日本語の可能表現において文脈は表現の意味を左右するので、非常に大事なのである。

17. この車は運転できません。

18. この車は故障していますので、運転できません。

19. この車は車検の期限が切れていますので、運転できません。

17 のように文脈がなければ、なんらかの事情でこの車は動けない。つまり車が動くという素質が失われたところを見れば属性可能の意味に理解されやすいであろう。しかし、文脈なしでは色々な可能性は残っているのも事実である。それに文脈をつけて、18 のように「故障している」なら主に車自体の問題だから、属性可能と言ってよかろう。しかし、19 は「期限切れ」であるならば、車の属性ではなく、交通規則によるものだから条件可能と理解されるであろう。もし、「期限切れ」だから、交通規則に則って、運転させないという権力者の権限による表現と理解されれば、禁止になるわけである。

20. 私は券を持っていないので、入って映画を見ることができません。

21. 券を持っていない人は入って映画を見ることができません。

20 のように動作主の「私」に視点をおけば、券の有無は行為実行に関する条件になり、条件可能の表現になろうが、21 のようにその決定権を持つ権力者が動作主として表現の背景にあると理解されれば、許可、禁止という意味を表す表現に変わってしまう。<sup>(註8)</sup>

以上の例から見てわかるように、日本語の可能表現において異なった意味を表すにもかかわらず同じ表現形式を用いることが可能なため、文脈なく表現形式だけではどのような意味が理解に悩む場合が生じるであろう。日本語の可能表現は文脈があってはじめてその意味が正確に理解できるようになるので、その文脈が読み取れて初めて表現形式の表す様々な意味を正確に理解することができるようになる。このように見てくれば日本語の可能表現において、文脈がいかに大事であるかが明らかである。言い換えれば、文脈の手がかりがなく、あるいは文脈を正しく読みとれなければ表現形式からどの可能表現の種類に属するか、どのような意味に使われるかを理解することはかなり難しいということである。文脈の読み取りに慣れていない学習者にとっては尚更のことである。

### 三. 中国語の可能表現の形式と意味の表し方

前述のように、日本語の3種類の可能表現は表現形式によって意味の使い分けをしているのではなく、主に文脈に頼っている。一方、中国語において、勿論文脈も大事であろうが、表現形式は可能表現の種類によって異なることが多いため、文脈がなくても、表現形式だけで3種類の可能表現を区別することができる場合が多い。

中国語の「会」は主に能力可能に、「能」は条件可能、属性可能等に使われる。

22. A : 你会走路吗? B : 我会走路。(A : あなたは歩けますか。)(B : 私は歩けます。)

23. A : 你能走路吗? B : 我能走路。(A : あなたは歩けますか。)(B : 私は歩けます。)

常識的に大人なら誰でも歩くという能力を所有していると認識されるので、わざわざ能力可能の「会」で相手に当たり前持っている能力について質問したりすることもないし、

自分のことをそう言い表すこともない。その意味で特殊な場合以外 22 は使われない。23 の「能」で質問することは即ち能力があることを前提に、何か条件的制限によりその行為の実行の可否についての質問だから聞くことが可能になるわけである。このように中国語では能力可能なのか条件可能なのか表現形式で区別して使われているのである。次のような例を見ればより明らかである。

24. 「提一个看上去很幼稚的问题：“你会走路吗？”也许有人会说：“你不会是在开玩笑吧！谁还不会走路啊，我们不是每天都在走路吗？不光会走路，而且走得好看呢！只有婴儿和身患重病的人才不会走路，那是因为他们不能走啊；如果能走的话，他们也愿意自己走路啊！” (<http://bbs.voc.com.cn/topic-4038032-1-1.html> 2012/10/19 ) (以下筆者試訳)

「幼稚っぽい質問をするようですが、“あなたは歩けますか”。そのような質問を聞いたら、恐らく人は“バカげたことを言うな。歩くぐらいのことは誰にでもできる。私たちは毎日歩いているではないか。歩けるだけでなく、恰好よく歩いているのよ！赤ん坊や重い病気を患っている人は歩けないかもしれないが、それは歩きたくないわけではなく、歩こうと思っても歩けないだけなのです。歩けるようなら彼らも自分で歩きたいでしょうが”

24 の「你会走路吗？」の質問は普通の日常生活の中での歩行する能力の有無を聞くのではなく、健康のための独特の歩き方ができるかどうかについての質問なのである。それは誰にでもできるようなものではないから、「你会走路吗？」という質問が成り立つわけである。しかし、それにもかかわらず、誤解を避けるために、いきなり質問する時にわざわざ「提一个看上去很幼稚的问题」と前置きをしてから「你会走路吗？」と質問を發したのである。また、この例文でわかるように「婴儿和身患重病的人才不会走路」において、その能力がないことについては「不会走路」と「不会」を用いているが、その「不会」の理由について説明する時に、赤ん坊と重病患者は歩く条件が備わっていないから「不能」が用いられ、条件可能の「能」が使われているのである。この例文で示されたように、「会」と「能」では可能の意味が明らかに異なり、「会」は能力可能の表現に使われ、「能」は条件可能の表現に使われる表現形式なのである。

25. 我会游泳。(私は泳げます。)

26. 我能游一百米。(私は百メートル泳げます。)

25 の「会」は能力可能であるのに対し、100メートルといった条件が付き、表現は条件可能の意味になると「会」はもう使えず、26 のように必ず条件可能に用いられる「能」を使用しなければならない。

27. 这辆车不能开。(この車は運転できません。)

28. 这辆车坏了，不能开。(この車は故障していて、運転できません。)

29. 这辆车坏了，不准开。(この車は故障していて、運転してはいけません。)

30. 这辆车的车检已过有效期，不能开。

(この車は車検の期限が切れたので運転できません。)

31. 这辆车的车检已过有效期，不准开。

(この車は車検の期限が切れたので運転してはいけません。)

文脈なしの27では、具体的に何の理由によるかは分からなくても、とにかく何らかの理由により、使用できない状態にあると理解されるであろう。この時点では日本語と同じように属性可能と理解されやすい。しかし、文脈があれば意味が変わる可能性が出てくる。文脈「这辆车坏了」をつけて車の状態を表すという意味で理解されるなら、属性可能となるが、これを後の「不能开」の理由として理解されるなら条件が備わっていない意味になり、条件可能の表現と理解されるが、実質的な意味としては婉曲的な「禁止」になる場合も考えられる。29の「不准开」なら婉曲的ではなくズバリ「禁止」の意味になるから、かなりきつい表現になる。30は車検の期限が切れたという条件可能であるか、婉曲的な禁止になるかであるが、31は「不准」だから、ズバリ禁止の意味になるわけである。このように、文脈は全く必要ないわけではないが、中国語の可能表現の形式において「能」か「可以」かによって表現の意味のおおよその見分けが可能になる。

32. 我有票，能进去看电影。

(私はチケットを持っていますので、入って映画を見ることができます。)

33. 我有票，可以进去看电影。

(私はチケットを持っていますので、入って映画を見ることができます。)

34. 没有票，不可以进去看电影。 (无票者不得入内)。

(チケットがなければ入って映画を見ることができません/入ってはいけません。)

35. 你没有票，不能进去看电影。

(チケットがなければ入って映画を見ることができません。)

32は、チケットの有無が入ってみるという可否の条件なら、条件可能の表現になり、「能」が使われる。33は、チケットの有無により管理者に許可されるか否かを意識していれば、「可以」が用いられることになる。即ち両方とも用いることができるのだが、話し手の意識によって使い分けられる。言い換えれば、どれが使われるかによって話し手の考えが推測可能になるわけである。34は掲示の看板のような場合、不特定多数を相手に対しては婉曲的に伝える必要はなく、「不可以」「不准」「不得」を使っても差し支えないであろうが、35は客と面向かって言う場合は正面衝突を避けるために、話し手の意志を丸出しに表すのではなく、「没有票」で条件が備わっていないから入ることができないと表せば丸く収められるであろう。「不能」が「不可以」より婉曲的な言い方になるからである。

これらの例を見ればわかるように、中国語は表現形式の使い分けにより、必ずしも文脈を頼らなくても可能表現の種類を識別することが可能である。言い換えれば、異なる表現形式でそれぞれの意味を表現することも理解することもできるのである。中国語の可能表

現は表現の意味により、表現形式が決まるので、多くの場合たいして文脈に頼らなくても表現形式から表現の意味を理解できると言えよう。

#### 四. 日中の可能表現の異同について

日本語の可能表現は意味の違いにより、表現形式の変化は殆ど見られないのに対し、中国語においては可能表現の意味により表現形式は変わることが多い。このような違いは日本語母語話者にとって中国語の可能表現の習得を困難にしている一方、日本語の可能表現は文脈まで読みとって初めて可能表現の意味を正確に理解できるということは学習者にとってはなかなか困難なのである。次の日本語の例から可能表現における日中の表現の違いをよく表しているので、長いが引用する。

36. A女:「いいお店を見つけたんだけど、フランス料理を食べにいかない?」<sup>(註9)</sup>

B男:「いいね。久しぶりにおいしいワインが①飲めるかな」

A女:「もちろん。Bさんはかなり②飲めるんだっわね」

(レストランで)

給仕:「本日はサービスといたしまして、お一人様1杯ずつこちらのラインワインが無料で③召し上がれます」(それぞれのグラスに注ぐ)

B男:「うーん、このワインは④飲める。かなり、いいものだね」

給仕:「はい、こちらは日本ではなかなか⑤お飲みになれないと聞いております」

A女:「私はワインはちょっと苦手だから…キールなら⑥飲めるかな」

B男:「ちょっと待って。このワイン、本当に素晴らしいよ。きっと⑦飲めるよ」

A女:「そう?あ、おいしい。……ワインがこんなにおいしく⑧飲めたの、初めてよ」

この例では③と⑤の敬語表現を通常の表現にすれば、全部「飲める」という同じ表現形式の可能動詞にできる。例36のように具体的な会話において、同じ表現形式だけで、能力可能、条件可能、属性可能等の意味に用いられるわけである。

①から見ていこう。<sup>(註10)</sup> ①はレストランという場所的条件的可能、②は主体の酒に強いという属性の可能、③ではレストランのサービスという環境的可能的、④は客体であるワインの質的価値的可能的、⑤は本場に限られるという場所的条件的可能的、⑥は客体であるキールの質と主体の属性的可能的、⑦⑧は客体であるワインの質的価値と主体の属性的可能と分類することができる。この説明に沿って中国語に訳したらどうなるかを見てみよう。

①は場所的条件的可能だから、前述のように、中国語では条件可能を表す「能」が使われることになる。今天大概能喝上好葡萄酒了吧。

②は主体の酒に強く、量的にたくさん飲めるという意味を、中国語では「能」の前に「很」をつけて「很能」で行為を量的にたくさんできることを表すから、你很能喝吧。

③はレストランのサービスという環境的可能的というが、店側からの許可により無料で一



杯飲むことが許されることである。従ってそれを中国語では「許可」を意味する「可以」と訳すことが普通であろう。每人可以免费喝一杯。

④は客体であるワインの質の価値的可能だが、ワインの質の属性に対する評価である。中国語では属性の評価は「好～」を用いて表現する。这葡萄酒真好喝。

⑤は場所的条件の可能だから、「能」が用いられる。在日本，只有在这儿能喝到这么好的葡萄酒。

⑥は客体であるキールの質と主体の属性的可能との説明である。キールのアルコールの度数あるいは味など客体の素質からみれば属性可能になる。しかし、会話の流れでは、私はワインは苦手だから飲めないが、キールならという前提条件を付けているから、条件可能としても読み取れると思われる。従って、次のように訳してよかろう。要是餐前酒的话，我或许能喝一点儿。

⑦は客体であるワインの味の良し悪しではなく、備わっている属性（例えば相手の好み、アルコールの度数）から判断して、あなたも飲めるよ、という意味なら、这葡萄酒合你的口味，你肯定能喝。

⑧は客体であるワインの質的価値に対する評価だと思われるので「好～」を用いて、⑧我第一次喝到这么好喝的葡萄酒！

このように、日本語の「飲める」は中国語で「能」、「很能」、「可以」、「好～」のように、多種多様の可能表現で表すことになる。日本語において、文脈上から見れば「飲める」が色々異なる意味を表すにもかかわらず、同じ表現形式で表すことができるわけである。

可能動詞「飲める」を例に試みてきたように、それだけで色々な可能の意味を表すことができる。そのため、具体的な会話において、能力可能なのか、条件可能なのか、属性可能なのか、どのような可能の意味と理解すればよいかとなると、文脈に頼らなければ理解するのが難しい。同じ表現形式を使用できる日本語はその色々な表現の意味を区別するために、文脈の依存度が高く文脈から可能表現の意味を読み取らなければならないと言える。一方、中国語は表現形式で使い分ける意識を有しているから、可能表現の意味をそのまま理解することが多いため、文脈に対する依存度は少なくとも日本語ほど高くはないと言える。このような言語習慣の違いから、学習者は可能表現自体を文法的に理解できるとしても、文脈への理解を疎かにしがちなわけである。これが日本語の可能表現を正確に理解する妨げとなり、日本語の可能表現への誤解が起こる可能性も高くなると考えられよう。日本語の可能表現が何の意味で何を表すか時々困惑を感じることから日本語が曖昧だと思ようになる原因の一つであると思われる。日本語の表現自体だけを理解するなら、日本語は曖昧に見えるかもしれないが、その表現方法への理解が深まれば、日本語の表現を正確に理解できるようになるであろう。

## 五. 終わりに

可能表現における日本語と中国語との表現の仕方の違いについて考えてきた。日本語の可能表現では同じ表現形式を用いて、能力可能、条件可能、属性可能等の意味を表すことができるが、どのような意味に使われるかは文脈にかなり依存していることが分かった。一方、中国語の可能表現では基本的に可能表現の意味の違いにより、その用いられる表現形式もそれぞれ異なるから、文脈に依存する度合いは自ずと低くなる。中国語を母語とする学習者が日本語の可能表現を習得する時に、表現形式は比較的単純だから習得しやすいと言える。しかし、具体的な運用の段階になると、上の例で示されるように、文法的には可能表現と理解ができたとしても、文脈を敏感かつ正確に読み取ることができなければ、一体どのような意味に理解すればよいかはかなり戸惑うことになるであろう。このような文脈に頼って理解する習慣があまり養われてきていない学習者にとっては、一見習得しやすいように見える可能表現への理解に躓いた時に、日本語の可能表現の形式ははっきりした意味を表していないと思い、どのように理解すればいいのかわからないから日本語は曖昧だと感じてしまうのであろう。日本語の可能表現の習得に文脈が大事であることが明らかであり、それを理解できるようにすることが大事である。文脈がしっかり理解できるようになって初めて日本語の可能表現を正確に理解できると思われる。

本稿では属性可能は条件可能、いわゆる結果可能等との意味関係については殆ど言及していないが、可能表現を系統的に理解するには属性可能は他の可能表現との関係を明らかにする必要があると思われる。そして中国語の類似表現との対照を通してそれぞれの特徴を明らかにする必要があると思われる。これを今後の課題としたい。

## 注

注1：その他に形式を有しない結果可能等の分類も見られるが、本稿は形式を有する可能表現についての考察をするため、取り扱わない。

注2：表現形式の分類は基本的に『文法Ⅱ』に従う。なお、(～得る)等の表現形式もあるが、本稿はこれらについては扱わないため省く。

注3：「～られる」、「可能動詞」は「～ことができる」と置き換えられない場合もあるようだが、本稿は便宜上これについては不問にする。詳しくは呂雷寧(2008)を参照されたい。

注4：日本語のいわゆる結果可能もあるが、決まった表現形式がないので本稿では扱わないことにする。

注5：本学のゴミ箱は「燃えるごみ」、「燃えないゴミ」と表示しているが、他の所で「燃やせるゴミ」、「燃やせないゴミ」といった表示も見受けられる。

注6：文法Ⅱp.69

注7：属性可能表現の時制に関する表現については次稿に譲る。

注8：許可、禁止は可能表現の形式が用いられる場合は可能表現と扱われるが詳しく今後の研究に譲る。

注9：坂田 p. 100

注10：坂田 p. 101

### 主要参考文献

1. 国際交流基金 日本語国際センター 1995年 『教師用日本語教育ハンドブック④  
文法Ⅱ助動詞を中心にして』 凡人社
2. 坂田雪子編著 新屋映子 守屋三千代著 2003年 『日本語運用文法——文法は表現する——』 凡人社
3. 張麟声 2001年 『日本語教育のための誤用分析 中国話者の母語干渉20例』  
スリーエーネットワーク
4. 呂雷寧 2008年 『ことばと文化』第9号 名古屋大学大学院 国際言語文化研究  
科日本語文化専攻

